

国語 Vol.2

本書の構成と特色

本書の構成

本書は、全体が「習得編」「定着編」「演習編」「実戦編」の四つの章に分かれていて、基本・標準レベルの問題から、発展・実戦レベルの問題まで、段階的にステップを踏んで学習することができます。

一つの章は十単元で構成されています。十単元の内訳は、文章読解の学習として、「文学的文章」が三単元、「詩・短歌・俳句」あるいは「古典」が二単元、文章読解以外の国語の学習として、「漢字・語句」が一単元、「文法」が一単元となっています。この一つの章のサイクルを、一冊の中で四度繰り返し返します。章を重ねることに、長い文章、難度の高い問題が織り交ぜられていくので、国語の学力を無理なく高いレベルまで引き上げることができます。

第一章 習得編

習得編では、文章のジャンルに沿った読み取り方（人物の心情の読み取り方など）を学習します。平易な文章を取り上げた〈例題〉を材料に、〈解法のポイント〉では「どう考えるか、どう読み取るか」が示されています。これを頭に入れてから〈確認問題〉を解くことで、文章読解で必要となる基本的な力を身に付けることができます。仕上げの〈練成問題〉では、そのジャンルの文章読解のスキルがしっかりと身に付いたかを確認します。

第二章 定着編

定着編では、さまざまな読解問題についての解法（要旨・主題の把握など）の定着を図ります。そのジャンルの文章読解に不可欠な解法を、〈例題〉と〈解法のポイント〉で学習し、〈確認問題〉で実践することによって、確実に身に付けることができます。仕上げの〈練成問題〉では、学習した解法が長い文章題でも活用できるように練習します。

第三章 演習編

演習編では、第二章までに学習した内容をさらに深め、さまざま

な文章題のパターンに対応できるように、問題演習を行います。文章題には、教科書レベルの標準的な文章を素材として取り上げられます。特に、文学的文章と説明的文章の長文読解の単元では、ことばの意味などの知識で解ける問題はできるだけ抑え、考えて答えを出す問題を数多く出題しています。なお、第三章、第四章の「短歌・俳句」「古典」「文法」の単元では、〈例題〉↓〈解法のポイント〉↓〈確認問題〉で、国語知識を学習します。

第四章 実戦編

実戦編では、実際の入試問題を想定した文章題を出題しています。第三章までに比べて、読解単元の素材となる文章もぐんと長くなるので、粘り強く文章を読み解く力を養うことができます。すべて〈練成問題〉で、難度が高く応用力を要求される設問も多いので、じっくり考えて判断するという、問題に取り組む姿勢も身に付けることができます。

漢字練習

四つの章の単元数に合わせて、四十回分の漢字の練習問題が巻末に付いています。

目次

国語 Vol.2

第一章 習得編

1	文学的文章 (1) (小説)	例題	確認問題	4
2	文学的文章 (2) (小説)	確認問題	8	
3	文学的文章 (3) (小説)	練成問題	12	
4	説明的文章 (1)	例題	確認問題	16
5	説明的文章 (2)	確認問題	20	
6	説明的文章 (3)	練成問題	24	
7	詩 (1)	例題	確認問題	28
8	詩 (2)	練成問題	32	
9	漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち/部首)	例題	確認問題	36
10	文法 (1) (名詞)	例題	確認問題	40
		練成問題		

第一章 定着編

11	文学的文章 (4) (隨筆)	例題	確認問題	44
12	文学的文章 (5) (隨筆)	確認問題	48	
13	文学的文章 (6) (隨筆)	練成問題	52	
14	説明的文章 (4)	例題	確認問題	56
15	説明的文章 (5)	確認問題	60	
16	説明的文章 (6)	練成問題	64	
17	詩 (3)	例題	確認問題	68
18	詩 (4)	練成問題	72	
19	漢字・語句 (2) (音読みと訓読み/熟語の組み立て)	例題	確認問題	76
20	文法 (2) (動詞/形容詞/形容動詞)	例題	確認問題	80
		練成問題		

第三章 演習編

30	文法 (3) (副詞/連体詞/接続詞/感動詞)	例題	確認問題	練成問題	126
29	漢字・語句 (3) (ことわざ/慣用句)		確認問題	練成問題	122
28	短歌・俳句 (2)			練成問題	118
27	短歌・俳句 (1)	例題	確認問題		114
26	説明的文章 (9)			練成問題	110
25	説明的文章 (8)			練成問題	106
24	説明的文章 (7)			練成問題	102
23	文学的文章 (9) (隨筆)			練成問題	96
22	文学的文章 (8) (隨筆)			練成問題	90
21	文学的文章 (7) (隨筆)			練成問題	84

第四章 実戦編

付録	漢字練習 1 ~ 40	例題	確認問題	練成問題	174
40	文法 (4) (助詞/助動詞)				170
39	漢字・語句 (4) (四字熟語/故事成語)		確認問題	練成問題	166
38	古典 (2)			練成問題	162
37	古典 (1)	例題	確認問題		158
36	説明的文章 (12)			練成問題	154
35	説明的文章 (11)			練成問題	150
34	説明的文章 (10)			練成問題	144
33	文学的文章 (12) (小説)			練成問題	140
32	文学的文章 (11) (小説)			練成問題	136
31	文学的文章 (10) (小説)			練成問題	130

第一章 習得編

1 文学的文章 (1) (小説)

例題 1

〈井上靖「魔法壇」より〉

(1) 「私」は、この事件の時、どんな体の状態だったと考えられますか。書いて答えなさい。

(2) —線①「私と同じようなことを感じた」とありますが、どのようなことを感じたのですか。書いて答えなさい。

(3) —線②「魔法壇には手をふれず、遠く離れてすわった」とは、勘ちゃんの魔法壇に対するどんな気持ちを表していますか。書いて答えなさい。

(4) 本文中から、**比喩**を巧みに用いた部分を一か所書き抜いて答えなさい。

解法のポイント

(1) **設定** 文学的文章では、まず設定をつかむことが大切です。ここではまず「私」と勘ちゃんが魔法壇で遊んでいる場面や、勘ちゃんの母親があまりに来たことから、二人とも子供であることがわかり、後半の「私のまくらもとはは〜」以下の部分から、「私」が「病気がけが家で寝ている状態」だということがわかります。

(2) **心情** 「私」の気持ちについては前の部分で述べられているので、勘ちゃんも、「むざんな、取り返しのないことが起きてしまったという絶望を感じた」と考えられます。

(3) **心情** 勘ちゃんの様子からは、「魔法壇を何か恐ろしいもののように感じ、近寄るのもいやだと思つて気持ち」が感じられます。

(4) **表現** 「宮殿の建物でも粉々に壊れたような」という比喩によって、むざんな、取り返しのない事態が一層強調されています。

〈梅崎春生「午砲」より〉

(1) この文章を大きく二つに分けるとすると、どこで分けられますか。本文中から後半部分の最初の五字を書き抜いて答えなさい。

(2) —線部「少年はにわかに、こわいような悲しいような気持ちになって」とありますが、少年がこのような気持ちになった理由を書いて答えなさい。

(3) おじさんはどんな人だと思われますか。書いて答えなさい。

解法のポイント

(1) **場面構成** 時間や場所、登場人物の変化などから場面構成をつかみます。

登場人物はおじさんと少年で変わらず、場所もみさきに住んでいるおじさんの家とその周辺で変わらないので、時間の変化から構成をつかみます。

・前半「おじさんはくひびきをもっていた」……おじさんと少年との交流。
・後半「ある日曜日、く包帯をしてくれた」……小さな事件。

(2) **心情** 少年がけがをしたのに、おじさんは水の中にふき出る「紅いけむり」のような血に心を奪われているようです。そんな「何かほかの事に気をとられて、少年の存在を忘れてしまったようなおじさんを見たから」、少年は「こわいような悲しいような気持ち」になったのです。

(3) **人物像** おじさんは、世間や外界とは距離をおいて、自分の世界に住んでいる人のようです。しかし、少年にいろいろなことを教えてくれたり、ハゼつりに連れて行ってくれたりしているので、優しい人でもあるようです。から、「優しい心を持っているが、時おり自分の世界に閉じこもってしまうこともある人」と考えられます。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈川端康成「夏の靴」より〉

□(1) **心情** —— 線①「馭者の勘三は馬を大変愛している」とありますが、そのことが最もよく表れている一文を本文中から探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

□(2) **内容理解** —— 線②「街道の子供たちは勘三の馬車に一番目をつけているが、また一番恐れている」とありますが、街道の子供たちが、①「一番目をつけている」理由と、②「一番恐れている」理由を、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 勘三が馬を大変愛しているから。
 イ 勘三の馬車だけが八人乗りで、一番きれいだから。
 ウ 勘三がとても神経質だから。
 エ 勘三の馭者台からとび下りる身振りが軽快だから。
 オ 勘三には子供が馬車にぶら下がったことがすぐにわかるから。

①
②

□(3) **場面構成** ①この文章全体を二つに分けた場合、後半部はどこからになりますか。本文中からその最初の五字を書き抜いて答えなさい。また、②後半部に挿入された、普段の勘三の行動を説明している部分を探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

②	①

〈辻邦生「夏の砦」より〉

□(1)

心情

——線①「私は自分の分を兄のと一緒にして、そのバスケットを持った」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 兄が、かんしゃくを起こして松たけを捨ててしまつては、あまりにももつたいないと思つたから。

イ 松たけを多く見せることで、自分たちの情けない気持ちをまぎらわせようと思つたから。

ウ 家に帰り、父母に、実はすべて自分がとつたのだと言つて、驚かせようと考えたから。

エ 両手があけば、兄は思う存分大きな枝をふり回すことができ、気分がすつとすつと思つたから。

□(2)

心情

——線②「半ば鼻をひくつかせながら」とありますが、これは「私」のどんな気持ちを表していますか。本文中の同じ段落から三つ、それぞれ四字以内で書き抜いて答えなさい。

□(3)

内容理解

※

に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア お前があんなものを持っていると疑われるからね

イ お前はそんなに松たけが欲しかったのか

ウ もうあの山には毒きのこしかできないんだ

エ もうあの山はうちのものじゃなくなつたんだ